

①主体的な活動を促すための学習の流れのパターン化

- ・「めあてカード」「まとめカード」の活用
- ・自らの考えをまとめる「たっぴーシート」を活用した自力解決と話し合い活動
- ・適用問題と自己評価の実施

つかむ  
課題把握

②学習意欲を高める問題提示の工夫

ア 思考意欲・表現意欲を喚起する課題の設定と工夫

- (1) 児童の実態や実生活を考慮した課題を設定する。
- (2) 児童の知的好奇心や探究心をくすぐる課題を設定する。

イ 児童の実態に応じた課題提示の工夫

- (1) 児童と対話をしながら課題を提示する。
- (2) 既習事項との関連を図りながら課題を提示する。



もとめる  
自力解決

③自力解決のための算数的活動の工夫

ア 課題解決の見通しのもとで

- (1) 教室掲示やノートを活用して、既習事項や先行経験を想起できるようにする。
- (2) 必要に応じて具体物や半具体物を活用する。
- (3) 一人で考えを導き出すことが難しい場合には、少人数で考えを交流し、解決の糸口をつかむことができるようにする。

イ 個に応じた支援

- (1) つまづきが予想される児童には、意図的に机間指導を行う。
- (2) 自力解決の様子に応じて、必要な助言をする。
- (3) 実態に応じた学習シートを準備する。



ふかめる  
共同解決

④考えを出し合う活動と話し合う活動の視点、まとめの方向性の明確化

ア 活動状況に応じた教師のはたらきかけ

- (1) たっぴーの視点（比較検討や分類整理の視点）等を示す。
- (2) 児童の発言を受けて、共感したり助言したりする。

イ 交流スキルを高める工夫

- (1) 必要に応じて、物を操作したり、指し示したり、書き込みをしたりしながら説明するよう支援する。
- (2) 算数用語を正しく使って説明できるようにする。
- (3) 友達の考えとの類似点や相違点に応じ、質問や感想を述べるように促す。

ウ 思考を広げ深める学習形態

- (1) ペア、グループ、全体など、目的に応じて効果的に設定する。
- (2) 交流のねらいに応じて、意図的なグループ編成をする。



まとめる  
まとめ・習熟

⑤学んだことの振り返りと学んだことを活用する場の設定

ア 学習の振り返りと自己評価

- (1) 本時のキーワードを入れて、自分の言葉でまとめるように促す。
- (2) 学年に応じた自己評価（記号・一言感想・算数日記など）を行い、自己を振り返る場を設定する。

イ 学んだことを活用する場の設定

- (1) 適用問題の時間を確保する。
- (2) 学習したことを使ってみたい、試してみたいという思いが膨らむように助言する。

